

社会に目を向ける意識を育てる — ロゴマークの制作 —



高知県立岡豊高等学校
小西 芳直

●学校紹介・特色

高知市の東隣、南国市岡豊町にある県立岡豊高等学校は、県内唯一の芸術コース（音・美・書）が設置された普通科高校である。また、部活動が活発な学校としても知られており、全校生徒の8割を超える者が何らかの部活動に参加している。

今回の授業対象生徒（美術コース2年・平成22年度入学生）は、集団としての雰囲気が高く美術やデザインについても日頃より興味関心と学習意欲が高い。

●対象学年

2年生 普通科芸術コース（美術コース選択生）28名

●所要時間

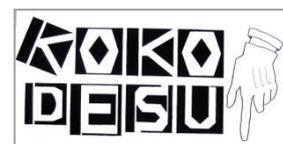
10時間程度

●題材設定の理由

美術コースでは2年次に「ビジュアルデザイン（2単位）」を履修する。1年次に「構成（2単位）」を通して色彩や形に関する基礎を学んでいるが、デザイン領域に特化した科目履修は初めてである。ロゴマークの制作は、レタリング授業の発展として行う。既存ロゴの鑑賞から学習をスタートさせることで、技術の習得だけでなく「情報としての文字」と「絵としての文字」の2つの側面の理解に繋げ、同時に受け手側の気持ちに立った表現や感受性の伸長が期待できると考えた。授業を通し、世の中に存在する各種のロゴを観察する目を養い、さらに作品の裏に隠された企業や商品開発者の思いにも想像を膨らませることができると考え本題材の設定に至った。

●準備物

デザイン資料・参考作品・アイデアスケッチ・プロジェクター・書画カメラ・PC



●手順

1. 世の中にある会社や商品のロゴマークについて知る。

企業理念や作り手の思いが反映されていることや、時代によってデザインが変化していくこと等を知る。



2. アイデアを考え、考えた内容をアイデアスケッチにまとめていく。

ロゴの表面的な造形だけでなく、その裏に作者（または企業や商品開発者）の気持ちや精神が、見る側にどうすれば上手く伝わるかをしっかりと考えることが大切である。デザインでは考えたアイデア自体が作品の一部であること、作品につながるということに気づかせ考える楽しみが持てるよう配慮する。ある程度アイデアスケッチが描けてきたら一度アイデアスケッチを全員で鑑賞する。「アイデア鑑賞」を行い最終制作へと意欲を繋げる。（集団全体での感性と発想の共有）



3. 完成。

完成後はプロのデザイナーが制作したロゴと自分たちが制作したロゴを比べて鑑賞する。自身の作品とプロが手掛けた作品の制作における着眼点や仕上げに関する違いや良さを確認し、全体の振り返りを行う。



●まとめ

授業終了後の感想では「買い物に行ったとき商品のロゴを注意して見るようになった」「背景を考えアイデアを練る思考を育てられた」「色々なロゴを見るようになった（ロゴを見て）どういうところを見て欲しいのか考えるようになった」「改めてデザイナーというのは凄い仕事だと感じる」等、生徒の心にはデザインを通じて周囲の物事に改めて目を向ける意識が見られ、社会に対する視野の広がりも確認された。